

次期基本計画に係る審議の整理メモ

審議テーマ	第Ⅲ期基本計画における論点
環境に関する統計の充実・整備	○ エネルギー消費統計について、時系列安定化やデータの精緻化のための各種見直しの効果の持続性等の検証を行うとともに、基幹統計化についての結論を得ることをはじめとして、産業・業務部門のエネルギー消費に関する統計の体系的な整備の促進を図る【別表 No. 105】
これまでの統計委員会の意見	—
各種研究会等での指摘	—
担当府省の取組状況の概要	<p>＜令和3年度統計法施行状況報告（暫定版）＞</p> <p>○ エネルギー消費統計では、委託研究により得られた方策（(i)標本を半数ずつ入れ替えるローテーション・サンプリングの導入、(ii)差推定の導入、(iii)時系列での外れ値排除処理の導入など）を採用し実施している。これらの効果の検証は委託研究によって継続的に行っており、安定的な時系列変動に一定の効果をもたらしていることを確認している。一方で、これまでの検証によって浮彫となった課題への対応及び基幹統計とする場合の状況として足り得るかといった視点も含め、精緻な総合エネルギー統計への組込みに資するため、令和3年度(2021年度)は、エネルギー消費統計の精緻化に向けた検討（業種別、燃料種別、業種別×燃料種別のエネルギー消費量の時系列分析、母集団推計方法の再検討、従業者規模の小さい区分の推計方法の検討）等を実施。</p>
次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方（案）	<p>○ エネルギー消費統計調査については、これまでの改善に向けた各種見直しの効果を検証した結果、時系列の安定化や結果の精緻化に一定の効果があつたものと評価できる。また、産業・業務部門のエネルギー消費に関する統計の体系的な整備についても、各種統計調査の実施とエネルギーバランス表の作成により進展しているものと評価できる。</p> <p>○ 一方で、推計手法に差推定を適用した結果を分析したところ、変動を緩和しきれない事例や外れ値による影響が数年にわたり生じる事例があるなどの課題が残されていることから、引き続き、精度向上に向けた各種見直しの効果について検証し、必要に応じて更なる改善方を検討することについて、次期基本計画に記載すべきではないか。</p> <p>○ また、本調査開始以来本調査の重要性は変わらず高いと考えられることから、本調査の精度向上に向けた取組を優先的に進めつつ、環境分野の統計整備の重要性について次期基本計画の本文に記載する中で、併せて、将来的な基幹統計化を含む本調査の重要性についても記載することとしてはどうか。</p> <p>＜基本的な考え方＞</p> <p>○ 資源エネルギー庁は、エネルギー消費統計について、時系列の安定化やデータの精緻化のための課題の検討を引き続き行う。【資源エネルギー庁；令和5年度から実施する。】</p> <p><u>○ エネルギー消費統計は、エネルギーの需要・供給動向に加え、二酸化炭素の排出といった環境分野の分析を行う上でも非常に重要な基礎統計である。このため、将来的な基幹統計化も含め、エネルギー消費統計の精度向上に向けた取組を継続的に進めることが重要である。【本文に記載】</u></p>
備考（留意点等）	※ 環境分野の統計の整備の重要性について、次期基本計画の本文に記載